太田市地域公共交通計画　中間とりまとめ案　概要資料

令和8年11月　群馬県太田市　市民生活部　地域モビリティ戦略課

■ はじめに　―計画策定の背景と目的

➡中間とりまとめ案【序章】p3を参照ください

- 近年、人口減少・少子高齢化、新たな技術革新、コロナ禍を経て変容したライフスタイルや移動需要等、**公共交通を取り巻く環境は複雑かつ多様化**しています。また、公共交通運行の担い手である**運転手不足及び高齢化は、持続可能な運行体制の維持においても大きな課題**といえます。
- こうした内外の情勢変化を踏まえ、本市では将来にわたる持続的な発展を見据えた「未来型産業都市」の実現に向けた新たな施策の3本柱を立ち上げました。その**重要な柱の一つとして「快適な地域交通の推進」が掲げられており**、市民の誰もが移動しやすく、活力のある都市活動を支える基盤として公共交通施策の抜本的な見直しが急務となっています。
- 単に既存の交通網を維持することだけでなく、**まちづくりと一体となった持続可能で快適な地域交通のあるまちを構築**するため、地域公共交通の課題解決に向けた有効かつ実効性のある、実現可能な交通施策を体系的に定めるものとして、『太田市地域公共交通計画』を策定します。

「未来型産業都市」の実現に向けた“太田市の３本柱”

①ミライにつながる産業振興　②快適な地域交通の推進　③市民に寄り添うデジタルシフト

■ 本計画の策定の方針　―3つの方針に則り、計画策定を行います。

➡中間とりまとめ案【序章】p4を参照ください

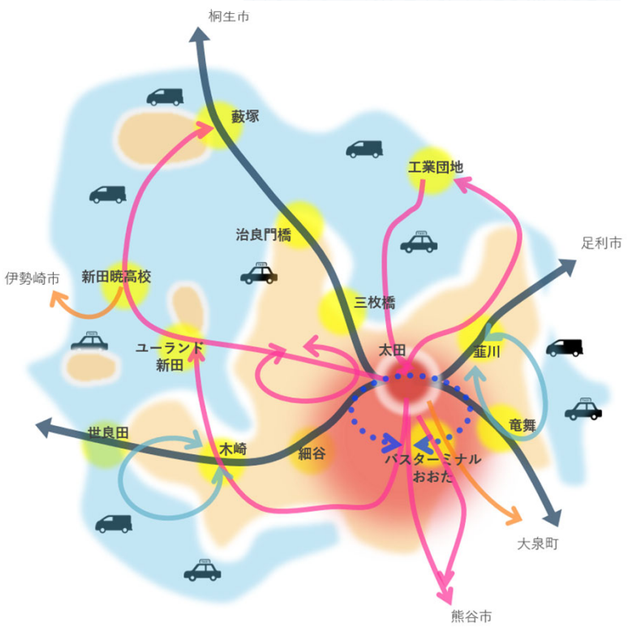
方針❶：多極ネットワーク型コンパクトシティの推進	• 多くの拠点をネットワーク化しながら、まちづくりと一体となった交通施策を展開 • 首都圏も見据えた市外との繋がりの形成を意識した計画を構築
方針❷：既存公共交通と次世代の技術のベストミックス	• 地域の移動特性や各交通モードの特性を踏まえた役割分担を行い、有効かつ持続可能な地域公共交通体系を構築 • DXを推進し、多面的な利便性の向上を促進
方針❸：多様な関係者の連携・協力体制構築	• 鉄道・バス・タクシー等の交通事業者との対話を重ね、着実に事業を推進していける連携・協力体制を構築 • 多様な関係機関の連携・協力による移動形態の構築支援を促進

■ 本市が目指す公共交通ネットワーク

➡中間とりまとめ案「2章」p17を参照ください

- 太田駅をはじめとする主要鉄道駅のほか、地域の**交通拠点となりうる場所（交通ハブ）を経由**する形で、**幹線バス（シティライナー・朝日バス）や支線バス（広域連携バス）の路線網を形成**します。
- バス路線網だけでは需要をカバーできない地区では、**おうかがい市バス・タクシー・支線バス（公共ライドシェア路線）による路線網を構築**します。
- 上記のほか、市内の企業従業員を運搬する**通勤バスを市内循環型路線として機能**させ、日常的な利用の一助とします。





■ 本計画の基本方針

➡中間とりまとめ案【2章】p8を参照ください

- 本計画では、**メインターゲットとして学生（高校生）・働く世代（通勤者）・高齢者**を位置づけ、それぞれの意向から浮かび上がる課題を考慮し、計画期間内の実現を目指す**計画の基本方針として“3つの柱”を設定**します。

太田市地域公共交通計画の“３つの柱”

1　渋滞緩和対策｜【目標】円滑な都市交通と自家用車依存から脱却できるまちづくり

➢ 利便性の高い公共交通網を形成することで、保護者の送迎負担の軽減につながる学生の移動手段確保と、働く世代の自家用車への過度な依存からの脱却を進め、渋滞緩和による経済損失の低減と都市交通の円滑化を図るまちづくりを推進します。

2　高齢者等の移動支援｜【目標】移動に不安を抱える市民が安心して外出できる交通セーフティネットの構築

➢ 高齢者や障がい者をはじめとした移動に不安を抱える市民が、日常生活（通院・買い物）において安心して外出できるよう地域の実情やニーズに応じた利用しやすいセーフティーネットとしての交通網を整えます。

3　都心とのアクセス強化｜【目標】広域移動の選択肢拡大と交流人口の促進

➢ 出張や観光等の需要に対応するため大都市圏・結節駅へのアクセス性を高めるとともに、広域的な移動の選択肢を充実させることで、本市と都心への行き来を活発にし、交流人口の増加や首都圏への人口流出抑制につなげます。

■ 計画推進に向けた施策

➡施策の詳細は、中間とりまとめ案【3章】を参照ください

- 上記で示した計画の基本方針（3つの柱）ごとに、現況データ等の整理結果を踏まえながら**「主な現状と問題点」を整理し、各目標を実現するための施策を設定**します。以下にその関係性を示します。

基本方針・目標	主な現状と問題点	施　策
1　渋滞緩和対策 【目標】円滑な都市交通と自家用車依存から脱却できるまちづくり	通勤時間帯の慢性的な渋滞 送迎の常態化と悪天候時の移動手段切替 既存路線バスサービスのダイヤ不満と車内混雑 市営無料バスの財政負担と需要のミスマッチ 壮年層の流動への未対応 深刻な運転手不足	❶シティライナーおおたと市営無料バス有料化による一体的な路線再編 ❷主要施設駐車場を活用したパーク＆ライドの導入検討 ❸市民・企業へのモビリティマネジメントによる渋滞緩和対策 ❹運転手不足解消に向けた人材確保対策
2　高齢者等の移動支援 【目標】移動に不安を抱える市民が安心して外出できる交通セーフティネットの構築	老後の移動への強い不安とデマンド交通の限界 外縁部における公共交通の空白化	❺タクシー運賃補助制度の導入 ❻おうかがい市バスの制度見直し ❼福祉輸送・他分野の移動支援との連携強化・情報提供 ❽外縁部へのデマンド交通の導入検討
3　都心とのアクセス強化 【目標】広域移動の選択肢拡大と交流人口の促進	東武鉄道の利便性や快適性向上のニーズ 太田駅以外の交通結節機能の脆弱さ 「シャトル500」運休による都心へのアクセス機能の後退	❾鉄道利用の魅力発信 ❿熊谷駅までの新ルート構築 ⓫駅前ロータリー、バス停留所等の整備

□ 今後の計画取りまとめに向けて

- パブリックコメントで市民の皆さまからいただいたご意見を踏まえながら、内容の精査・ブラッシュアップを図ります。
- これらの内容のほか、計画内容の評価方法や、推進体制の考え方についても検討を深め、最終的に『太田市地域公共交通計画』として取りまとめを行います。策定・公表は令和9年3月を予定しております。